

(様式2)

社団法人日本心理学会研究集会等助成金成果報告書

代表者氏名 (ふりがな)	大平 英樹 (おおひら ひでき)	所属	名古屋大学大学院環境学研究科社会環境学専攻心理学講座
研究集会等名称	社団法人日本心理学会精神神経内分泌免疫学研究会		
成果概要	<p>1) 参加人数 (会員・非会員及び認定心理士の人数を記載してください)</p> <p>会員 46名 (うち認定心理士 5名) 非会員 39名 (うち認定心理士 0名)</p> <p>2) 集会等の目的・成果等 (実施内容・成果・将来計画等を用紙範囲内に記載してください)</p> <p>【研究集会】</p> <p>目的：精神神経内分泌免疫学に関する最新の知見の共有、研究者間の交流を深めることで共同研究を行う機会を促進することを目的とする。また、若手研究者に積極的に研究発表の機会を与えることで若手研究者の育成に努める。</p> <p>成果：平成 23 年 7 月 9 日に第 14 回研究集会を名古屋大学にて、平成 24 年 1 月 7 日に独立行政法人産業技術総合研究所にて第 15 回研究集会を開催した (別紙プログラム参照)。第 14 回研究集会では、3 題の研究発表と 1 つのミニディスカッションが、第 15 回研究集会では 4 つの研究発表が行われ、精神神経内分泌免疫学における最新の知見についての情報交換と活発な議論が交わされた。また、本研究領域における現状と問題点について議論することで今後の問題点が明確化された。</p> <p>将来計画：今後は、第 16 回研究集会を企画することで、さらなる情報、研究手法・技術の共有化、研究者間の連携を強めることを目指す。</p> <p>【日本心理学会第 75 回大会ワークショップ】</p> <p>目的：心理学領域における精神神経内分泌免疫学の普及と、基礎研究と応用研究の間の情報や技術の共有化を目的とした。</p> <p>成果：日本心理学会第 75 回大会において『精神神経内分泌免疫学研究の展開—諸領域における生理指標を利用した研究—』と題したワークショップを開催した。ワークショップにおいては、各領域を代表する 3 名の若手研究者の講演に対して、応用的な視座より長く研究を行ってきた津田彰先生に指定討論をいただき、精神神経内分泌免疫学の基礎的知見をどのように各分野へ応用していくかについて議論を行った。</p> <p>将来計画：日本心理学会第 75 回大会において行ったワークショップの内容から、日本心理学会第 76 回大会では、特に睡眠にターゲットを絞り、睡眠と精神神経内分泌免疫学に関するワークショップを開催する予定である。</p>		